

# 京中生に インタビュー 2013

発行日 平成25年 9月 1日(日)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 第4回

インタビューも今回が最終回です。おもしろい本をいっぱい教えてくれて、ありがとうございました。<編集部>

## 守 花さん(2年)「夢をかなえるゾウ」 佐古岡祐奈さん(3年)「1リットルの涙」

——佐古岡さんの「1リットルの涙」、2年前にも、お姉さんの真由さんが同じ本で読書感想文コンクール受賞していますね。家にある本なのでしょうか。

佐古岡 そうです。やはり実話の方が、私には読書感想文が書きやすいので、家のこの本を選びました。木藤亜也さんの日記の言葉に感じるものがあるって読み続けてしまいます。

——副題に「難病と闘い続ける少女亜也の日記」とありますね。

佐古岡 「脊髄小脳変性症」というのが亜也さんを襲った病名です。歩く事、食べる事、話をする事も徐々にできなくなって行く病気です。原因もわからず、進行を遅らせる薬以外には何の治療法もない難病です。

——お姉さんにも聞いたのですが、この亜也さんのいた時代って、ビデオもケータイもない「昭和」の時代の話なんですね。本を読んでいて違和感を感じませんでしたか？

佐古岡 全然感じませんでした。「病気になって負けるもんか」「たとえどんなに小さく弱い力でも私は誰かの役に立ちたい」という亜也さんの意志には、時代を越えたメッセージがあると思います。

——なるほど。私は、本に掲載された亜也さんの写真見ていると、周りに写っているいろいろな品物に「昭和」の時代を思い出して、なんとも切ない気持ちになります。

さて、守さんの「夢をかなえるゾウ」。とても

面白かったです。今回のコンクール受賞作中、いちばんの収穫かもしれません。守さんの感想文では「夢をかなえるゾウ2」をとりあげていますが、「1」は読んでない？

守 ええ、まだ読んでいません。

———そうですか。ぜひ「1」も読んでください。

「1」を読むと、「2」に出てくる「貧乏神」の意味が何倍にもふくらみますよ。

守 貧乏神は「金無幸子(かねなし・さちこ)」という美しい女性の姿をしているんですよ。貧乏神の「どんなにつらい状況でも、それを楽しもうとする気持ちさえあれば、人は、自らの手で喜びを作り出すことができます」という言葉が印象に残っています。「お金がなくても、人は幸せになることができるんです」というのは大した哲学です。

———それを、説教くさい学術文体で語るのではなく、ほとんど漫才の実況中継みたいな文体の中で語るわけですからね。いや、すごい技。

守 ガネーシャ(←夢をかなえるゾウ)の「本ちゅうのは、これまで地球で生きてきた何億、何十億っちゅう数の人間の悩みを解決するためにずっと昔から作られてきてんねんで」という言葉もよかったです。

———「1」では、「ワシ(ガネーシャ)が教えてきたこと、みんな自分の本棚の本に書いてある」とまで言ってますね。「2」では、すばり「図書館」が修行の場として登場するし。

守 ガネーシャって、さりげない一言で人の心の持ち方を大きく変えてしまう力があると思います。この本を通し、もっともっと色々な本を読んだら、知識や世界が広がって行くような気がします。



京極読書新聞は  
毎月1日発行です。



左：守 花さん（2年）  
「夢をかなえるゾウ2」  
水野敬也／著  
（飛鳥新社，2012. 12）

右：佐古岡祐奈さん（3年）  
「1リットルの涙」  
木藤亜也／著  
（幻冬舎，2005. 2）



左：藤波太喜くん（3年）  
「都会のトム&ソーヤ」①～⑩  
はやみねかおる／著  
（講談社，2003.10～）

右：川脇佑介くん（3年）  
「すきまのおともだちたち」  
江國香織／著  
（白泉社，2005.6）

## 藤波太喜くん(3年)「都会のトム&ソーヤ」 川脇佑介くん(3年)「すきまのおともだちたち」 新谷保人(湧学館)「夢をかなえるゾウ」

新谷 今回の読書感想文コンクールは、なにか、いつもにも増してレベルの高い受賞作品が揃ったように感じました。繰り出してくる本のどれもがおもしろくて、ついつい読みふけってしまうことが多かったです。「すきまのおともだちたち」、よかった。でも、男の子が、よくこの本みつけたなあ…とも思って、今日のインタビューが待ち遠しかったです。

川脇 1年生の時の国語教科書に江國香織の「デューク」という作品が載っていて、それがとてもよかったので、その後も江國さんの本を読むようになりました。

新谷 なるほどね。教科書か… ガールフレンドのオススメ本なのかな?とか、いろんなこと考えましたよ。その点、「都会(まち)のトム&ソーヤ」は直球勝負でわかりやすい。一昨年、芥川龍之介「蜘蛛の糸」で受賞した藤波くんが、今年は「マチトム」かぁ!と多彩な技に拍手喝采です。私も、湧学館にある6冊は一気読みでした。

藤波 ぼくも、お母さんが湧学館から借りてきた「マチトム」がたまたま家にあったので、第1巻を手にとったら、もう第10巻目まで、あっという間に読んでしまいました。ほんとに、こんな冒険、したいです。

新谷 感想文には、友だちと町内を自転車で探検したことが書いてありましたね。なんか、そういう、「動きたい!」みたいな気を起こさせる本ではありません。

藤波 そういうパワーの源は何なのか?とよく考えると、ぼくには、トム(内藤内人)のおばあちゃんの言葉にヒントがあるような気がするのです。「考えろ。どんな状況でも、よく考えろ。自分のできることを考えて、自分の力を信じて、最後まであきらめなかったら、たいていの勝負には負けない。」

この「あきらめなかったら」が大事なのではないかと。

川脇 ぼくにも、「読め!読め!」って、うるさいんですよ(笑)

新谷 そうですか。でも、「すきまのおともだちたち」も、いろんな人に読んでほしいなあ。この小説、あまりにも完璧に作品構成が仕上がっていて、私には感想文書くのは難しいですね。「ぜひ読んでみてください」としか言いようがない本です。川脇くん、よく、この本で感想文書きましたね。すごいや。

川脇 「すきま」の世界に住む女の子の「過去の思い出っていうのは、なくなってしまったものの思い出なの」という言葉に、自分の過去の思い出がうまく重なりました。女の子は、同じ「すきま」世界の住人「お皿」の古いお屋敷に暮らしていた思い出を例にとり、「彼女(お皿)はそこでの幸福な生活をなくして、それはほんとうにつらいことだったと思うけど、かわりに思い出を手に入れたんだもの」といいます。

新谷 「すきま」の女の子の独特の哲学がものすごく心地いいですね。二度目の「すきま」世界、「旅」の話には「ほおーっ」と感心しました。やはり、若いというのは、感受性が柔軟でうらやましいなあ。まだまだ、どこまでも伸びる時間がある。二人とも、今でもかなりの本を読み続けていることをびびりと感じます。

藤波 今回の読書感想文コンクール、「マチトム」や「すきま」以外にも、おもしろい本、ありましたか?

新谷 中学生部門なら、「ロックとマック」。「俺俺」。西村くんと「ゲド戦記」の話ができたこと。いろいろあったけど、いちばんのホームランは、守さんが感想文書いた「夢をかなえるゾウ」かなあ。あのひょうきんな表紙の裏に、こんなすごいことが書いてあったなんて、ほんとビックリでした。

## 戦時中の紙芝居・その2 「モモタロウサン」

町内のとある物置の中から出現した戦前・戦中の紙芝居「モモタロウサン」。前回の「貝の火」のように、結末を180度書き換えてしまうといった手荒なことはやっていませんが、なにか、細かいところが変なのです。

オバアサン ガ ジャブジャプト キモノヲ アラッテ キマスト、カハカミカラ ドンブリッコ ドンブリコト、オホキナ アカイ モモト、アライ モモガ ナガレテ キマシタ。

ズキブン オホキナ モモ デスネ。オバアサン ガ 「アライ モモ、アッチヘ イケ。アカイ モモ、コッチヘ コイ。」ト、イヒマスト、アカイ モモガ オバアサンノ ハウヘ ナガレテ キマシタ。

(裏のセリフより)

桃が「2個」流れてくるなんて、聞いたことない! 「アライ モモ」には何が入っていたのかな?

<湧学館/新谷保人>



### 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

